

令和4年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第2学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○字形が整わなかったり文字を丁寧に書いたりすることができていない。 ○学習した漢字や助詞を適切に作文や文章に書き表すことができていない。 ○話すこと・聞くことの学習において、自信をもって話すことができていない。 ○読書をする習慣が少なく、物語文の読み取りに慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやプリント等を確認し、繰り返し丁寧に書く指導をする。間違いは丁寧に直させる。 ○文章を書いた後に「既習の漢字を使えているか」「助詞が正しく使えているか」等のポイントを示し、見直しの指導をする。 ○自信をもって発表できるように、様々な形態で練習する機会をつくる。 ○図書の時間を活用して、読書する機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○字形のポイントをおさえ、丁寧に書く習慣をつけるようにする。 ○文章を書いた後に見直す視点を明確にしたり、「はじめ・中・おわり」の区切りで見直したりするなど、見直しの習慣をつけさせる。 ○ペアやグループで練習する活動を取り入れる。 ○普段の学習の中で、自分の意見を友達に伝える習慣をつくる。 ○図書の学習の際に、読書する本を物語のものに限定する。また、貸し出しの本に必ず物語本を入れるなどして読書の習慣をつけさせる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対し、前向きに取り組む児童が多いが、発表することに対し消極的である。 ○計算の仕方を理解し計算を正しく行うことに個人差がある。 ○量の見当をつけたり、測定したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決の時間を確保し、個別に声かけを行う。自分の考えを順序よく説明するためにタブレットも活用する。 ○授業で計算の仕方をおさえ、宿題プリントやタブレットを用い繰り返し計算練習を行わせる。計算能力にはかなり差があるので、児童に合わせて問題に取り組みせる。 ○日常の事柄と関連させながら指導する。その単元を学習しているときだけではなく、長さや量や時間などについて継続して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○式や言葉、図、グラフ等、多様な考えをもてるように指導する。小集団で考えを発表し合ったり、他の児童の考えを自分の言葉で発表させたりする。 ○必要に応じて具体物や図を用いることで、数の表し方や計算の仕方を捉えさせる。基準にする量を明確にした指導を行う。 ○日頃から身の回りのものの量に着目させ、日常生活の中で量感を養わせる。実測を伴う活動を多く取り入れることで、量や時間を適切に表すことができるようにさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍により身近な人々と関わる活動が不十分である。 ○様々な事柄に興味はあるが、経験が少ないため、理解や行動に結び付かない。 ○動植物の観察については、特徴に気付き、表現することに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○密を避けたかかわりの方法を工夫した単元の指導計画を立てる。 ○自分の住んでいる地域について関心を深め、自分との関わりを考えさせる。 ○国語の「かんさつ名人」と連携し、観察項目を統一する。 ○タブレットで写真に撮るなど効果的にICT機器を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校内でのインタビューなど可能な範囲でかかわりをもたせる。 ○可能な限り、実際に足を運び、見たり感じたりさせ、愛着をもたせる。また、ICTを活用し、地域の様子などについて調べるようにする。 ○実際に見たり聞いたり、体験してみたりする活動を多く設ける。単元の導入を工夫し、児童が思いや願いをもって取り組めるようにする。 ○写真を拡大することや経時変化を比べることで、注目させたいところに気付かせる。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
音楽	<p>○楽しみながら歌ったりリズムをとったりしているが、音を正しく取れていなかったり、曲想に合わせて工夫して表現することには課題がある。</p> <p>○鍵盤ハーモニカの指使いやタンギングの習得が不十分な児童がいる。個人差が大きい。</p>	<p>○伴奏のメロディや周りの歌声をよく聴いて歌えるように声掛けをする。</p> <p>○短い時間でも鍵盤ハーモニカを練習する時間を取り入れる。実物投影機で教師の指使いを見せたり、友達と見合い、聞き合ったりする活動を取り入れる。</p>	<p>○曲想について気付いたことを全体で共有し、歌う際や聴き合う際に、「強弱」「速さ」など、工夫の視点をもたせる。</p> <p>○できるだけ鍵盤ハーモニカを練習する時間を確保し、教師の範奏を見せたり友達と見合ったり、聞き合ったりする活動を取り入れて、確認できるようにさせる。</p>
図工	<p>○道具があまりうまく使えない。</p> <p>○作品のイメージをもてない児童が多い。</p>	<p>○絵の具の使用方法を具体的に指導する。</p> <p>○はさみ、カッター、のりなど手先使う指導を丁寧にする。</p> <p>○例示した作品にとらわれず、児童の想像が大きく広がるような指導をする。</p>	<p>○絵の具や水の量、パレットの使い方を示すなど具体的に理解しやすい指導をする。</p> <p>○手先の作業を図解したり実演したりして理解を深めるとともに、補助の行い方などの工夫をする。</p> <p>○例を複数示したり、発展させたりして、イメージの多様化を図る。</p>
体育	<p>○様々な運動感覚が育っていない児童が多い。また、運動が得意な児童も一つの動きに特化しており、多領域にわたって基本的な運動感覚を身に付けている児童は少ない。</p> <p>○必要な動きができていないかどうか、仲間の動きを見たり、お互いに動きを見合ったり、声をかけたりすることに課題がある。</p>	<p>○遊びを通して、様々な運動感覚を身に付けさせる。また、児童が遊びながら、必要な感覚を身に付けることができるよう、単元の指導計画を工夫する。</p> <p>○教師による賞賛、指示、助言、励ましを意図的に行っていき、そこから児童同士の学び合いができるようにする。</p>	<p>○場をたくさん作り、それぞれの場で遊びを通して運動感覚が身に付くようにさせる。また、今後中学年の技能につながる動きをしている児童を称賛し、全体に広め、真似できるようにさせる。</p> <p>○技能ポイントの分析を通して、動きに合ったオノマトペを作成する。友達が活動する際に、オノマトペを言うことで「見合う」という意識を高めさせる。</p>